

## ◎在校生、同窓生に思いを込めて

「在校生へのアピールだけでなく、団塊の世代へのメッセージにもなるものはないか」一。思考廻廊パネルの内容をめくり、世話人一同、頭をひねりました。

「恩師の遺訓である先憂後楽、和而不同では…」 「いや3・11の教訓をメッセージにしたらどうだろう」。思い出話とともにアイデアが飛び交う中、たどりついたのが「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」で始まる「青春 (Youth)」の詩 (サミエル・ウルマン原作、岡田義夫訳) でした。

「青春」はご存じのように、私たち15回生が学び、働いた戦後をともに歩き、昭和時代を象徴する詩の一つで「青春とは心の若さをいう」とうたったものです。この詩は終戦直後、マッカーサーの座右の銘であったことで知られ、日本の経済成長とともに政治家や経済人の間に急速に広まりました。ウルマンは米国の実業家、岡田氏も詩人ではなく、一民間人という点もユニークです。

実はその後、この詩は、だれかの手で原作が改作され、オリジナルとは、かなりかけ離れたものであったことが分かりました。そして「千の風になって」の作曲・訳詩で知られる新井満氏らが、原作をもとに現代風に訳したものなどが、本にもなりました。しかし、そこは、表記こそ古風であるものの、戦後読まれ続けた岡田氏訳を採用。その冒頭部分を掲載することにしました (長い詩なので、後半部分を好まれる人も多いようですが…)。

さらに下段に記した「団塊団欒 友情無限」には「団塊世代は車座になり、酒でも酌み交わしながら、友情をどこまでも大事にしていこうよ」というクラスメートへのメッセージを込めました。

最後に新井氏の「青春とは」の一節を紹介します。

「臆病な二十歳がいる 既にして 老人

勇気ある六十歳がいる 青春まっただなか」

在校生諸君、肉体の若さにあぐらをかきことなく、勇気、根気、元気を失わず、創造力を磨き、さらに挑戦を続けましょう。私たち15回生は「青春」の詩の意気込みで、60の坂を、みんなで越えていくつもりです。

15回生パネル製作世話人 (文責・永尾)